



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 3 丁目 10-15 富士ビル 505 号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp



ステージに立ってみました

長岡リリックホール・シアター

- ・450 席
- ・オーケストラピット使用時は 378 席
- ・コロナ対策仕様だと 216 席
- ・全国交流会の候補にあがっている2つの会場にも伺いました。(松本)

12月19日、第1回新潟音楽祭現地実行委員会を長岡市内で開催する予定でしたが、報道でご存じの通りの大雪で中止(書面対応)となりました。そこで、松本会長と坂口副会長、新潟県支部の高野さんと竹内さんの4人は、本会場『長岡リリックホール・シアター』の下見をしてきました。仕切り直しをしてのスタートとなります。今年もよろしくお願いいたします。(佐藤)



リリックホール外観

**音楽祭新潟県実委は書面開催
大雪の中リリックホールを下見**

2023年日音協セミナー開催要綱(概要)

- とき** 2023年2月11日(土) 9時~12日(日) 15時
※2月11日(土)の開会時刻が早いので、前泊を基本とします。2月10日に交流会は予定していませんので、各自チェックインしてください。
- ところ** 小平市 学園坂スタジオ
■住所 東京都小平市学園東町1丁目7-41 3F
※新宿駅からJR中央快速線で28分 国分寺駅で西部多摩湖線に乗り換えて3分で一橋学園駅下車して北口から商店街に進み、スーパーマルエツ(maruetsu)の角を右折、寿司や「黒潮」のビル3F(徒歩3分)
■宿泊先 ビジネスホテル一茶別館(小平市学園東町1丁目8-1)ほか
※参加申し込みくださった方に個別にご連絡します。
- セミナーの内容**
 - セミナーのテーマは「つくる」と「うたう」の二本立てです。コロナ禍の活動は、基本感染対策の手前人前には出ないよう経過してきました。この3年間で歌う機会や新たな作品に取り組む機会も減少していますので、全国から元気を少しずつ持ち寄って、「つくる」と「うたう」のワークショップを開きます。
 - 「つくる」のワークショップ
参加者が持ち寄るお気に入りのリズムパターンや事務局が準備したリズムパターンを「あだ。こうだ。」と検討しながら、①まず最初にリズムパターンを作ります。②次にそのリズムパターンだけの演奏を組み立てる。③その演奏に持ち寄った歌詞やメロディを乗せる。④演奏して発表する。という流れです。持ち寄る素材がワークショップの命ですので協力をお願いします。
 - 「うたう」のワークショップ
ボイストレーニングのトレーナーに、谷森さんの Web コンサートに出演していただいた小笠原もすくさんを迎えて、歌う筋肉や歌声など体全体の鍛え方について教えていただきます。日音協のトップボーカリストを目指して、一緒に体を動かし声を出してみませんか。
- 参加費と交通費一部負担など**
 - 参加費お一人18500円(2泊3日、朝食、懇親会費含む)、全日程参加できない方の参加費の相当分を減額します。
 - 参加する日音協会員は各支部一人につき、往復交通費のうち13,000円を超える分を日音協が負担します。
 - 各日の昼食は各自でとってください。参加費に昼食代は含みません。
- 参加申込み**
1月22日(日): 一次締め切り。日音協事務局あてに別紙の申込み書により申込みをお願いします。
日本音楽協議会 [メール nichion@yomogi.or.jp](mailto:nichion@yomogi.or.jp) ファックス 03-6369-3057
- その他**
感染症が蔓延した場合には、延期もしくは中止にする可能性もありますので、あらかじめご了承ください。



ういみん

都支部コンサート 3年ぶりに開催



Piggies



おだかすやさん



都支部メンバー



都支部メンバー



寺島博之さん

届けたい私の歌

12月11日(日)、北区滝野川会館小ホールにて都支部コンサートを開催しました。

開催は3年ぶり。感染症拡大の中、昨年までの2年間は会員のみの『都支部交流会』でしたが、今回は久しぶりにお客さまをお迎えしての『コンサート』です。出演は8団体。いつもより少なかったのですが、地道に練習を重ねてきた「メイウィンズ」や「ういみん」、月1公演活動続けるひとり芝居の「おだかすや」、深みのある歌声で会場をしんとさせる「寺島博之」さんなど、充実した演目がそろいました。他にも「Piggies」、「狭石啓子」、スポットライトに「Rico & Tatsu」。「都支部」は音楽祭での構成『はじめのことは』を再演しました。

もうひとつ、全国代表者会議における沖縄県支部からの「日音協ソングを広めているか？沖縄は歌っている。」という発言に触発され、歌の紹介として今年の推薦曲から『武器を捨てて』を演奏。会場から手拍子が沸き、おおいに盛り上がりました。

来場は60名。感染が再々々・・・拡大の中、思った以上の参加数でした。25枚回収のアンケートにはぎっしりと書き込まれたものや、次回への期待の記述も多く、歌っていて良かった、開催して良かったと心から思います。明日からも歌い続けよう！

(森理子)



めずらしい ギターの坂口さん



アコ伴奏は松本政夫さん



狭石啓子さん



Rico & Tatsu (達哉くん)



メイウィンズ

福島県支部総会開催される

12月4日、日音協福島県支部総会が開催されました。コロナ患者が少しずつ増えてきている中でも、対面で顔を見ながら会員の半数が集まりました（5名の欠席者の委任状あり）。総会終了後には坂口さんが駆けつけ、来年の3月11日の反原発ライブ開催の提案がされました。

総会ではいつも通りお互いの近況報告、健康状態や介護状況、年金暮らしの大変さなど井戸端会議から始まり今年一年を振り返りました。久し振りに開催された水戸音楽祭に発表できたこと、郡山や三春地域で「原発事故被災者・帰還者向け」の歌声サロン、NPOの行動に参加してきたこと等、少しずつではありますが日音協のアピールができてきています。特に今年は長年の課題であった「作品集」を発行することができました。また、一緒に作成された反原発のDVDが今年の原水禁大会の参加者の前で見ていただいたことなど、コロナ禍の厳しい状況の中でも工夫が大切であることなど確認されました。



坂口さん 高山さん 南條さん 菅井さん 大友さん 二階堂さん

また、来年の3月11日の取り組みとして坂口さんからの提案を討論した結果、反原発ライブを「日音協福島県支部後援」として取り組むことになりました。6月の新潟長岡祭典に向けた準備とあわせ支部会員全体で頑張っていきます。

総会で確認された新役員体制は次の通りです。

支部長	二階堂 政則
副支部長	大友 孝雄
事務局長	菅井 浩
事務局次長	南條 善徳

（南條善徳）

「No Nukes Fukushima」～原発事故から12年目の3.11に歌う（仮称）～

後援/日音協福島県支部・後援団体は今後も募集

出演者

- ①いなのとひら・のとこば（第53回はたらくものの音楽祭ゲスト）
 - ②佐藤 GWAN 博（フォークシンガー、放送劇作家、役者）
[https://ja.wikipedia.org/wiki/佐藤博_\(フォークシンガー\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/佐藤博_(フォークシンガー))
（これはウィキペディアのアドレス？です）
 - ③新月灯花（脱原発を歌う女性4人のロックグループ）
https://www.inglabel.com/shingetu_toka/
- 日音協福島県支部/V J k i nも歌で参加



日時

2023年3月11日(土)15時15分～

会場 Koriyama CLUB#9(こおりやまクラブシャープナイン)

会費 2000円

<https://sharp9.net>

詳細は別途



「新月灯花」のHPより

長岡音楽祭に向け 東北北 合同練習開始！

12月3日、東北北3県の合同練習が盛岡市・マリオスで開催され、9名が参加しました。秋田の大嶋さんの指導と岩手の高橋円さんのピアノ伴奏で、音取り中心に行いました。（発表曲はまだ『ヒ・ミ・ツ』です。）どう仕上がるか、楽しみです。（佐藤）



はたらくものの音楽祭ステージあれこれ話

第三弾 《ステージの上手と下手》

第3弾以降は、はたらくものの音楽祭のステージでも知っていて当然のように使われる、ステージ用語についてのあれこれ話を特集していく予定です。ということで、今回は今年の音楽祭の PA サプリダーの岩野浩昭さん（東京都支部）より寄稿いただきました。

《いまさら聞けないステージ用語特集》

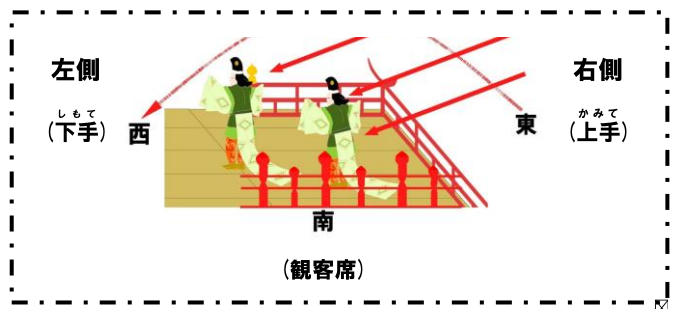
『ステージの上手と下手』

ステージの上手・下手の区別がイマイチ判明しない、ステージに向かって右側が上手で、左側が下手で、と教えてもらっても何故が釈然としない。音楽祭ではいつも司会者のいるところが下手でステージスタッフがスタンバイしているところが上手なんだ、と押し付けるように覚えてきた人も多いと思います。あるいは、音楽関係なのでピアノは下手がに設置されることが多いので、「ピアノニッ下手」とダジャレで覚えたり色々ですが、日本では「上手・下手」と言われるようになった理由は諸説あるようです。

能や歌舞伎などが盛んになり、電気による照明もなかった時代には、舞台は南向きに作られました。そして、日の出から日没まで「陽」が長くあたる東側（右側）を「優位」とし、俗にいう偉い人が配されるようになったことから、東側（右側）が「上手」、西側（左側）が下手と言われるるようになりました。

又、「彼の右に出る者はいない」、低い地位に落とすことを「左遷」という言い方がある通り、右側を「優位」とする考え方に基づいているとする説もあります。

ついでに、諸外国では日本でいう「上手・下手」は何というのか、調べてみました。英語圏では舞台からの視点という共通認識があり、上手を「Stage Left(SL)」、下手を「Stage Right(SR)」と表現しているようです。フランスは左右ではなく、別の言い方で、上手は côté cour（中庭側）、下手は côté jardin（庭園側）。これは王立劇団コメディ・フランセーズ上手側にルーヴル宮殿とテュイルリー宮殿の中庭があり、下手側にテュイルリー庭園があったことに由来するのだそうです。イタリアの舞台は観客席から見て右側（parte destra）、左側（parte sinistra）と表現されています。（東京都支部 岩野浩昭）



秋田県支部が総会開催



12 月 15 日 18 時より、秋田市の「にぎわい交流館 AU」の研修室で秋田県支部第 36 回定期総会を開催しました。

強い風と雪の悪天候の中、9 名が出席した総会は下総事務局長の開会の言葉で始まりました。村岡会長からは「昨年に続いて今年もコロナ禍により計画していた事が出来なかった部分が有り、会費を頂いている会員や組合の皆様に申し訳なく思っている。ただその中でも第 53 回ははたらくものの音楽祭全国祭典が茨城県水戸市で 3 年振りに開催されたり、県内では「食とみどり水のフェスティバル」がやはり 3 年振りに開催されるなどし、それぞれに参加したり主体的に関わる事が出来た。また、東北北ブロック WebConcert を工夫しながら開催することも出来た。まだまだ課題はあるが、会員の皆さんの知恵と工夫により、今後も秋田県支部の活動を盛り上げていきたい」と挨拶を頂き

ました。引き続き下総事務局長の司会、総会議長、議案の提案で議事が進められ、活動報告、決算報告、会計監査報告を満場の拍手で承認頂きました。議事の中で自治労の佐藤さんから東北北ブロック合宿について詳しい内容を知りたいとの質問があり、副会長の後藤さんから開催時期や場所、開催意義やカリキュラム等が説明されましたが、村岡会長から若干補足説明がされたあと元事務局長の嶋さんや総会議長の下総さんからも補足（特に楽しい内容）が相次ぎ、若い組合員の参加を願いつつ、なごやかな雰囲気の中で議事が進められました。その後活動方針案、予算案が提起され、中でも 6 月 3 日～4 日に新潟県長岡市で開催が予定されている第 54 回ははたらくものの音楽祭全国祭典まで時間が少ないことから、1 月中には事務局会議や幹事会を開催し、準備を進めて行きたいことも提案されました。また、予算案の内容についていくつか補足説明もあり、こちらも全体の拍手で承認されました。最後に新役員から挨拶を頂き、閉会しました。出席頂いた皆さま、有難うございました。（下総）



「安保3文書」の閣議決定に抗議し、憲法理念の実現をめざす平和フォーラム声明

日本の安全保障政策を大きく変容させる、いわゆる「安保3文書」の改定が12月16日、閣議で決定された。国会での審議、採決もなく日本の安全保障・防衛政策の根幹を、内閣の裁量で一方向的に決めたことに、まず抗議する。

日本は、自ら引き起こしたアジア・太平洋戦争において、朝鮮や中国をはじめとしたアジア・太平洋の人びとに甚大な被害を与え、自らもまた様々な戦火によって多大な被害を受けた。戦争全体の死者数は2000万人を超える。この戦争の反省を踏まえ、戦後の日本は、憲法9条にある「戦争放棄」と「戦力の不保持」を誓って再出発をした。しかし、朝鮮戦争を契機に警察予備隊・保安隊と再軍備が進められ、1954年に自衛隊が発足した。侵略戦争を経験してきた日本の市民社会は、防衛力増強に反対し、憲法9条の理念に拘泥してきた。この市民社会の基本的姿勢が、集団的自衛権行使を認めず、自衛隊を自衛のために必要最小限の武力を保持する「専守防衛」のための組織として、日本の防衛政策の基本に定着させた。

日本は経済成長と世界市場への進出の過程を歩み、それに伴って防衛力という名の軍事力を拡大してきたが、この「専守防衛」の基本政策を大きく踏み外すには至らなかった。戦後レジームからの脱却を標榜して成立した安倍晋三首相は、2014年、「集団的自衛権行使」容認の閣議決定を行い、日米同盟の深化と軍事一体化をもくろみ、2015年9月に自衛隊法をはじめとする安全保障法制を大幅に改悪した。自衛のための戦力と言う概念は瓦解し、自国が直接攻撃されていないにもかかわらず、他国に対する武力攻撃を阻止する戦力を認めるに至り、「専守防衛」という日本の安全保障の基本政策は危機的状況に陥った。

閣議決定による「国家安全保障戦略」、「国家防衛戦略」、「中期防衛力整備計画」の「安保3文書」改定は、スタンドオフミサイルなどの攻撃型兵器を保有し、防衛費をGDP比2%に倍増し、今後は5年で総額43兆円もの防衛費をつぎ込むとしている。ことに「敵基地攻撃能力（反撃能力）」の保有は、「専守防衛」を大きく逸脱し、これまでの政府方針の大転換であり決して許されない。攻撃型兵器の配備は、周辺諸国の脅威として東アジアの軍事的緊張を高めることに繋がる。「専守防衛」は相手国への「安全の供与」だが、「敵基地攻撃能力保有」は「脅威の供与」である。憲法9条の平和主義が何をめざし、何をもたらしてきたかを、今まさに考えなくてはならない。

米中対立を背景にし「台湾有事は日本の有事」などとして、防衛力増強を行うことは「安全保障のジレンマ」に陥り、更なる軍拡競争を呼び。防衛力増強が日本の安全保障に繋がるとは言えない。作曲家の坂本龍一さんは、「戦争は外交の失敗」として「攻められないようにするのが日々の外交の力。それを怠ってにおいて軍備増強するのは本末転倒」と自身のブログで述べている。戦争は愚かな行為であり悲惨な結末を生む。であれば戦争をどう回避するかを考えなくてはならないが、岸田首相からはそのような議論はまったく聞こえてこない。そのことこそ日本の安全保障の脅威だと言える。

また「安保3文書」は、防衛産業の強化と官民一体となった武器輸出、技術および研究開発の軍事活用、公共インフラの軍事利用にも言及している。すでに、特定秘密保護法、共謀罪法、重要土地調査規制法、経済安全保障推進法など、「安保3文書」がめざすものを支える法律が整備されている。今後、私たちのくらしや経済及び産業、学問の場も軍事的に利用されかねない。このような日本社会の根幹を揺るがすような方針が、拙速に決定されることは許しがたい。

自民党は、今年4月に自ら「新たな国家安全保障戦略等の策定に向けた提言」を内閣に提出し、防衛力増強と防衛費増額を要求していた。しかし、ここに来て財源問題で党内は混乱している。このような無責任な議論と数の力を背景に日本の重要課題が進んでいくことは、安倍政権以来の政治の危機を象徴している。

日本の市民社会は、相対的貧困率の高さに象徴される貧困と格差の問題、コロナ禍での失業や物価高騰に苦しんでいる。そのような市民生活の困窮に目を向けず、莫大な予算を防衛費に投入し、国の安全保障が国民の責任かのような発言を行い、所得税増、あろうことか東日本大震災の復興特別所得税にまで手をつけようとしている。これによって国民生活が圧迫されるのは火を見るより明らかだ。東アジアに軍事的緊張を高める「安保3文書」の改定を見送り、増税の方針を撤回することを、平和フォーラムは強く要求する。

「戦争をする国」へと軍拡に走り日本の安全保障政策を変容させるのではなく、粘り強い対話と交流に力を入れ、東アジア諸国との関係改善を図ることが先決だ。そして武力及び軍事同盟に依存しない姿勢を内外に示すことだ。憲法前文と第9条を実現していくことが、なによりも日本の最大の抑止力になることを、あらためて主張する

12・19国会議員会館前行動 毎月19日行動



2022年12月16日
フォーラム平和・人権・環境
共同代表 勝島 一博
藤本 泰成

日音協も加盟している「フォーラム平和・人権・環境」（平和フォーラム）から声明が出されました。予定された紙面を差し換えて読者の皆さんにお知らせします。（編集部）

水道橋 だより

▼日音協メーリングリストの皆さんには、日音協セミナーの発文(案内)が送られていますが、申込書などお問合せは事務局まで。(佐藤)

▼今年も師走となり断捨離中。ラベルもちゃんとつけないで溜まりに溜まったカセット、ビデオ、CD、…。発見。若い時に部屋でレコーディングしたカセットテープ。ちゃんと歌っているじゃないか。あ、探していた河島英五の「続・てんびんばかり」のテープ。NHKのFMに出た時のもの。『国と国とが争わなければ平和になれないのだろうか/同じようにビートルズをくちずさんでいる若者どうしが血を流しあって/原子力発電所を持たなければ生きてゆけないのだろうか/ゆがんだ草や木や/みにくい魚たちに/囲まれて生きてゆくのだろうか/核兵器を持たなければ自由になれないのだろうか/焼け野原を裸足で駆けてゆく子どもが/それを望んだのだろうか/…。断捨離はいっこうに進まない。(佐藤)』
▼座骨神経痛と掛けて/美人のママがいる小料理屋と解く。/そのココロは/椎間板(つい看板)まで痛い(居たい)でしょう。(飯島)

歌の力が物語るもの 113

茉莢坂うた行動 11/25 (460回) 報告 坂口美日

【参加者】スーさん、イサさん、佐藤さん、坂口美日 計4人

今日は参加が少ないかもという事前情報もあり、散々迷いながらも、最悪一人で歌う状況も考えギターを持参した。2012年9月から始まって10年、この茉莢坂にギターを持参したのは初めて。

18時25分、国会議事堂前駅出口を出て、茉莢坂を下っていくとトランペット音色が聞こえてきた。『あたりまえの地球』だ!あ、佐藤さんが来てる、ホッとしながら緩やかに角を曲がると、スーさんはトランペットに合わせて大きな声で歌いイサさんが鳴りものを鳴らし

ていた。できればこのままギターを背負っていたい。が、たくさんさんの楽器セットとトランペットを持参し鳴らしている佐藤さんを前にしてそういうわけにもいかない。3人が『原子力発電NO!』演奏し終わる頃に私の準備も終わり、「自分が弾ける歌の楽譜しか持っていないので、弾けない歌はギターはお休みします。」と宣言。優しい佐藤さんが「合わせますよ」と言ってくださり少しホッとして、さあ始めましょうかというところに、若い警官が笑顔で近づいてきた。

「これはどういったとくみですか?自分は今日ここが初めてなのですみません、教えてください。」と低姿勢に聞いてきた。原発事故後、2012年9月から、この場所で開催に向かっていたという話を話した。すると、その若い警官は「さっき歌っていた元気な感じの曲もそういう歌なんですか?」と聞いてきた。歌に興味を示す警官は珍しい。トランペットの軽快な音色とリズムが若い警官の耳を捉えたのかもしれない。『原子力発電NO!』というタイトルとこの歌ができた経緯を話すと、「良くわかりました」と納得の笑顔で戻って行った。音楽が好きなのかもしれない、いつか世が世になれば、一緒に歌う日もくるかな? くと良いな。

警官が去った後は、私のギターレベルに合わせての歌三昧となった。佐藤さんは森さんにもらったというファイルに楽譜がないときは、私の楽譜を見ながら合わせてくれた。『フクシマをくり返すな』『前へ』『決意』『戦争に力貸さない』『ジュゴンのすむ海』『メッセージ』『沖縄今こそ立ち上がろう』まで歌うと、スーさんから『ヒロシマのある国で』のリクエスト。私の楽譜にはなかったもので、佐藤さんの楽譜を見せてもらう。スーさんの元気な歌声がトランペットの音色が、私の下手なギター伴奏をかき消すように周囲に響いた。続いて『水に流すな』を歌い、締めはやっぱり『原子力発電NO!』。

政府は、福島原発事故被災者にもっと手厚い補償をすべく見直しを進めている。いまだ甚だ胡散臭い。汚染水放出と再稼働を強硬に推し進めるための潤滑油のつもりだろうが、騙されてはならない。被災者への補償は、東電が払っているように見せかけて、実は国民から巻き上げた電気代と税金で賄われているのだから。国はもうろん、東電など痛くもかゆくもないのだから。こんなデタラメな仕組みのまま再稼働などさせてはならない。いまこそ『原子力発電NO!』を高らかに歌おう!

▼敵基地攻撃能力の保有をめくって、防衛の戦略・政策を決めるのにどういった軍事的な脅威に直面しているのかは二の次にして、費用の捻出方法が議論されている。7年前の安保法制と同じ日本の進路を大きく転換する問題なのに、この国がどういう状態で侵略してくるのかの科学的・客観的な分析はなく、政府は「ことあるごとに」「日本を取り巻く安全保障環境はますます厳しさを増しており」という決まり文句を繰り返し、マスコミも「ますます」が、いつから比べて、どのように、脅威が増しているのかの身を何ら問うことはない。これを毎日ように繰り返されると、国民は根拠不明の不安感を刷り込まれていく。北朝鮮や中国が日本に上陸侵攻し直接軍事占領をするという脅威が騒がれているが、そうすることに何のメリットがあるのだろうか。仮に難民が押し寄せるとか尖閣が巻き込まれるとかいうことがあったとしても、戦闘部隊による正面切った渡洋上陸作戦とは量も質も異なる低レベルの脅威でしかない。敵基地攻撃能力の保有と云うが、それを実行する施設をどこに作るのか、沖縄に基地をほとんど押しつけている現実からして引き受ける自治体はあるのだろうか。費用の前議論すべきだと思ふのだ



どん行

(162)

飯島貞親

が。前に議論すべきだと思ふのだ